

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

# 原北中学校 学校通信



令和3年 7月 5日 第 6号

福岡市早良区小田部7-11-1

電話 092-851-3344

発行者 校長 福崎 浩 信



## 1学期の学校生活の中で、自らの成長を確認し更なる飛躍を・・・

早いもので7月に入り1学期のまとめをする時期になりました。始業式、入学式、対面式、定期考査、生徒会役員改選等々……新しい学年・学級で中学生として着実に成長している姿が見られます。年度当初の一人ひとりの目標を思い出し、これまでの努力による成果と残っている課題をまとめることが大切です。まずは自分自身を振り返る時間をつくり、自分なりに整理して1学期の終業式を迎えることを願っています。

また、これからは部活動の季節です。これまで部活動の練習で培ってきた「精神力・体力・技術力」が、大会で発揮できるものと信じています。

## CBT (Computer Based Testing) による生活習慣・学習定着度調査

平成22年度(試行)、平成23年度から本格実施されている福岡市生活習慣・学習定着度調査については、一人一台端末の整備が完了したことにより、調査の実施方法、実施教科等を見直し、本年度から一人一台端末を活用してのCBT調査となります。CBTとなることによって、年間に複数回、短時間での実施が可能となるため、よりきめ細かに生徒の状況を把握することに繋がっていくと考えられています。

国際的な調査である経済協力開発機構(OECD)の学習到達度調査(PISA)は、2015年度調査からCBT化され、我が国においても3年生対象に行われている全国学力・学習状況調査は令和4年度からの実施に向けて動き出しています。

## 道は開ける(成せばなる) 「長い目で見ると・・・小早川隆景」

本能寺で信長が明智光秀に討たれたとき、秀吉は備中高松城を囲んでいましたが、その報せが入ると、すぐさま毛利と和睦しました。この和睦の後で、本能寺の変を知った毛利方は、これを絶好の機会として、和睦を破棄して、秀吉の群を追撃すべきだという主張が多く出ました。その時、毛利方の副将小早川隆景は、それに反対して、「戦乱の時代が百年も続いたが、それもだんだん収まりつつある。そうした時代ということを考えて、秀吉を見ると、誠に立派な人物で、信長亡きあとの天下は自然にこの人に帰すると思われる。もしここで、和睦の誓いにそむいて秀吉の怨みを買えば、後日当家の滅亡は免れない。だから、むしろ和睦の心を益々熱くし、この人と将来ともに栄えていくことを考えるべきだ」と主張しました。そうやって、自分の甥であり、主君でもある毛利輝元や、兄の吉川元春を大いに説き、ついに和睦の方針を堅持することにしました。人間は、ともすれば目先の利害とか損得にとらわれて、長い目での利害、損得というものを見失ってしまいがちです。もちろん、当面どうするかということは刻々に起こってくるわけで、それを的確に行っていくことが極めて大事なというのはありません。しかし、それを的確に誤りを少なく行っていくためには、やはりいわゆる長い目でものを見、ものを考えたその上で、当面どうするかを決定することが大事です。